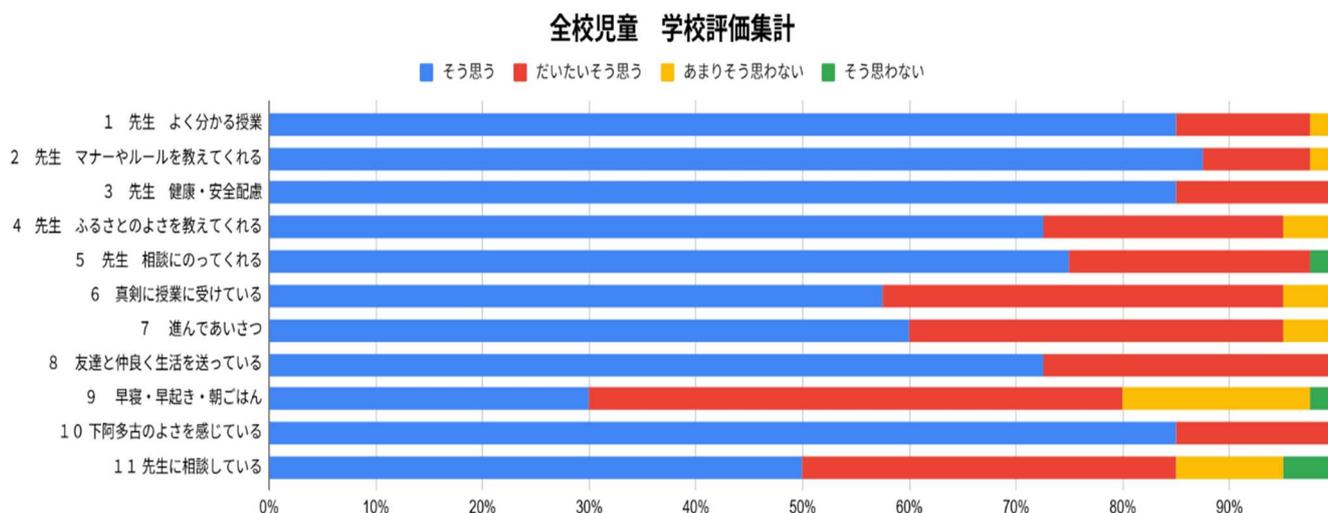


R7年度 浜松市立下阿多古小学校 学校評価報告書

1 【児童・保護者アンケート集計】



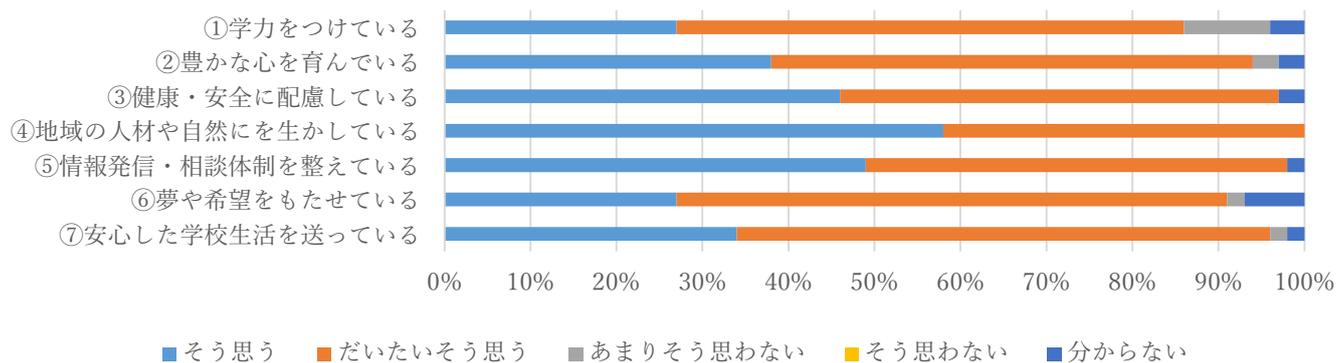
全ての項目において、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合が概ね80%を超えている。①から⑤の項目から、子供たちと職員との関係が良好であることが結果から推測される。小規模校という特性から、学年の枠を超えて、全職員で一人一人の児童を見守っていく学校風土を大切にしながら、今後も日々指導に努めていきたい。

⑧⑩の項目については、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合が100%という割合になった。⑧の項目については、小規模校という特性から、子供たち同士のつながりは強いものになっている。運動会や米作りなどの学校行事においては、高学年を中心として、みんなで盛り上げていこうという雰囲気が、本校の伝統として築き上げられている。また、休み時間には、異学年同士で遊ぶ姿も多く見られる。職員も子供たちと積極的に関わったり、定期的に行う生活アンケートを友好的に活用したりしながら、今後も人間関係作りを大切にしていきたい。

④の項目について、本校では、自然に恵まれた環境のもと、学区探検や水生生物の観察、鮎の放流、米作りなど一年を通して様々な教育活動が展開されている。その中で、四季を感じたり、下阿多古の歴史を学んだりすることができ、改めて自分たちが住んでいる地域の良さを感じられたと考える。次年度以降も地域の方々との連携を大切にしていきたい。子供たちにとってさらに自慢できる学校作りを目指していきたい。

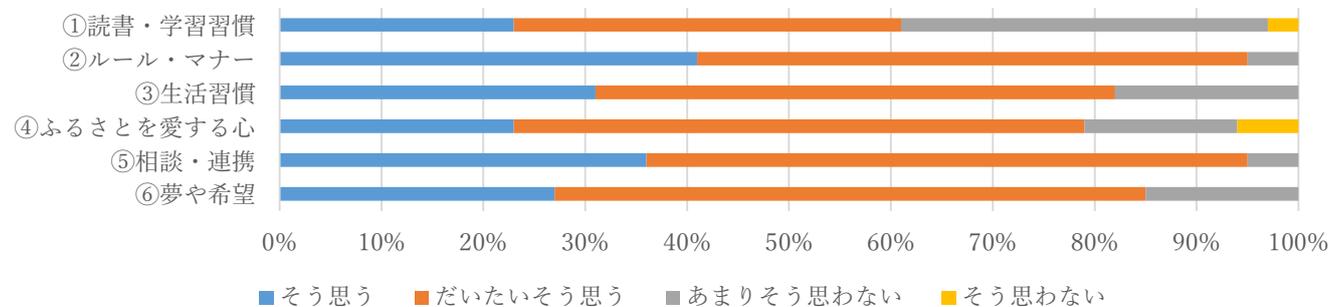
⑨⑪の項目について、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は、約80%となっている。⑨の項目については、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した割合が、昨年度に引き続き、一番高いものとなった。学校として毎月位置付けている「健康安全の日」において、自分事として生活習慣を見直すことができるような手立てを講じていきたいと考える。家庭の協力も得ながら、正しい生活習慣を送ることで、心にも余裕が生まれ、楽しく学校に通うことができたり、前向きに学習に取り組んだりすることのできる姿を目指していきたい。⑪の項目については、⑤の項目と関連付けると「先生に相談すれば話は聞いてくれるけど、自分から相談するのは勇気がいるし、恥ずかしい。」といった心境が結び付いていると考えられる。日頃からの子供たちとの人間関係作りを大切にしていきたい。気軽に相談できる風土作りに努めていきたい。また、子供たちのわずかな変化にも気付き、一人一人に応じた手立てを講じていくことができるような、生徒指導体制作りを大切にしていきたい。

保護者（学校での働きかけ）



全ての項目で、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合が85%以上となった。その中で、④の項目については、昨年度に引き続き100%という割合となっており、地域の方々に支えられながら、充実した教育活動を進めることができたと捉えている。また、③⑦の項目についても高い割合となっており、本校が目指す「児童・保護者・教職員が安心できる風土づくり」の実現に向けて、家庭・地域と連携を図りながら取り組むことができた結果と考える。一方、①の項目について、「あまりそう思わない」と回答した割合が10%となっており、昨年度と比較して8%増加している。小規模校の良さを生かしながら、児童一人一人に寄り添った授業作りに努め、確かな学びを身に付けていくように全職員で取り組んでいきたい。

保護者（家庭での働きかけ）



②⑤の項目について、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合が90%以上となっている。引き続き、家庭と連携を図りながら、信頼される学校作りを目指していきたい。一方、②⑤の項目も含め、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合が、昨年度と比較して全体的に低くなっている。特に①の項目について、約40%が「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答している。家庭での読書を含めた学習習慣の大切さを、改めて家庭に示していく必要があると考える。

2 【学校関係者評価】

2月12日(木)に開催された学校運営協議会において、自己評価及び考察について報告をした。児童・保護者ともに「ふるさとを愛する心」を学校教育の中で育てていることに高い評価を得られていることに大変うれしいという声があった。コミュニティ・スクールの活用において学校と地域が一体となり子供たちの教育に力を入れているという意見をいただいた。今後も豊かな阿多古の自然を生かした教育を実践していく中で、ふるさとを愛する心の醸成を地域全体で育ていきたい考えが示された。

「学力向上」や「読書習慣の定着」については、改めて家庭との協力の重要性を反省点として挙げていただいた。

いじめについては、基本方針に基づいて一人一人に寄り添う姿勢が大切であり、未然防止、早期発見、早期対応を引き続き家庭や地域と連携していくことが大切であると話し合われた。

3 【学校関係者評価を受けて】

○学校教育目標の「ふるさとを愛する子」については、学校・家庭・地域が連携・協働しながら、今後も子供たちの豊かな成長を支えていく。

○「学力向上」や「読書習慣の定着」については、学校でも生活習慣の振り返りや指導を継続的に行い、家庭と連携を図っていく。

○子供たちが主体的に学習できるように、ICTの活用など教員自身が子供たちの学びの伴走者となれるように主体的に研修に取り組む。また学校全体で「いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない環境・風土をつくっていく。